

大井陽司委員の質疑及び答弁

瘡師委員長 大井委員。あなたの持ち時間は60分であります。

大井委員 自民党県議会議員会の大井陽司です。

私からは、本県のものづくりの関係や、伏木富山港の長期構想についてお伺いしたいと思います。

また、「寿司といえば、富山」のブランディング、すしアカデミーが開校されたということで、その関係についても質問したいと思います。

それでは、「寿司といえば、富山」ブランディングについてお伺いします。

本議会で何回も議論されておりますが、本県が強力に押し進めている「寿司といえば、富山」のブランディング戦略において、人材育成の要となります北陸すしアカデミーが、先日開校しました。その役割は極めて重要なものだと考えております。

しかしながら、技術を身につけた卒業生が県内で独立、出店を果たすためには、強力な後押しが不可欠であると考えます。

そこで、卒業後の働き口の確実な確保など、彼らが十分に腕を振るえる活躍の場を創出する必要があります。

具体的には、昨年、1期生同志により、北海道の小樽市に視察に行きました。私も同行いたしました。小樽寿司屋通り等、参考になるものがありました。また、小樽市や、現在協力関係にあります北九州市をはじめとする先進事例を研究し、県内市町村と密接に連携した富山版寿司屋横丁構想の実現など、卒業生が県外へ流出することなく、本県内にしっかりと定着して活躍できる魅力的な受皿づくりが急務であると考えますが、川津知事政策局長に御所見をお伺いいたします。

川津知事政策局長 北陸初のすし職人養成校であります北陸すしアカデミーは、「寿司といえば、富山」の将来を担っていただ

くすし職人育成の拠点となることが期待されており、卒業後、受講生に県内で定着していただけるための環境を整備していくことが必要だと考えております。

すし職人の人材育成に向けましては、県では、北陸すしアカデミーの開設支援に加えまして、県内すし店でのお試し就職によるマッチングを支援しておりまして、これまで7名の方の正規雇用につなげてまいりました。

また、若手すし職人がお客さんの目の前ですしを握る、チャレンジショップ「寿司挑（すしチャレ）」を開催いたしまして、人材定着も支援してきております。

こうした中、委員御指摘のとおり、今般の北陸すしアカデミーの開校を契機に、卒業生の県内での活躍の場づくりを後押ししていくことが大変重要であると考えております。このため、アカデミーと連携いたしまして、チャレンジショップ等で実践的な経験を積むことができる機会の創出に取り組むことに加えまして、就職を希望される方に対しては、県内すし店などとのマッチングを推進していきます。あわせまして、県内で開業を希望される方に対しては、市町村や産業支援機関などとも連携いたしまして、融資や助成などの紹介といった橋渡しも行うと。受講生のニーズに合わせたサポートをしっかり行っていきます。

今後もすし職人を目指す皆様のニーズに寄り添い、北陸すしアカデミーや市町村などと連携を密にしながら、また、先進事例もよく勉強して、若手すし職人の方々が夢を持って活躍できる環境づくりを支援し、本県のすし文化の継承とブランド価値の向上に努めてまいりたいと考えております。

大井委員 すし職人の熱気が直接観光客も含めて伝わるような、すばらしい空間づくりを期待しております。

次に、北陸すしアカデミーの受講生に対する支援について伺います。

受講生に対して、受講に当たり必要となる滞在費用の負担を軽減するため、さらなる支援が必要と考えます。

ここで、委員長、デジタルサイネージでの資料提示の許可をお願いします。

瘡師委員長 許可いたします。

大井委員 こちらは、私の地元、岩瀬で開校しました北陸すしアカデミーの写真です。

北前問屋の古民家を改築して、釣具屋だったところを改装して、今現在、北陸すしアカデミーとして開校いたしました。

特徴といたしまして、すしアカデミーのホームページでうたわれていることですが、5つあります。

1つ目は、東京と比べて、滞在費が安く、費用を抑えて学べる。2つ目が、約500種類の魚介がそろい富山湾の食材を使った実習ができる。3つ目は、すしだけではなく、和食の基礎も幅広く学べる。4つ目が、鮮魚店での実習、朝競り見学、仕入れ研修などの現場力が磨かれ、即戦力になること。最後、5つ目は、東京すしアカデミーとの連携により、すし屋や海外での就職サポートも万全ですということが特徴でございます。

開校式には、資料の写真のように、経営者であります校長のジェイズコーポレーションの広島社長、そして、新田知事、武田議長、東京すしアカデミーの福江社長と、我々県議会からは中川県議、種部県議、そして私と。また、川津局長と、国会議員の秘書並びに県や市の当局、そのほか、水産会社の多くの方が出席されました。非常に盛大に行われました。出席された皆さん、本当にありがとうございました。

そこで、受講生は、東京などの大都市圏と比べて、富山は滞在費が安くて、生活費用を抑えて高い技術を学べるという本県ならではの特徴を最大限に生かすべきです。そのために、単なる交通費の助成にとどまらず、受講生向けの寮の整備に対する

補助や県営住宅の目的外使用による柔軟な貸出しなど、生活基盤を支えるサポートを抜本的に拡充してみてもいいかでしょうか。川津知事政策局長に御所見をお伺いいたします。

川津知事政策局長 北陸すしアカデミーの魅力を高め、県外の方も含めまして多くの方々に入学いただくためには、今委員から御紹介ありましたような5つの特徴、それから、富山ならではの特色をPRすることが大変重要だと考えております。

さらに、安心して受講いただける環境を整備することがさらに重要だということでありまして、こうした中で、本県といたしまして、北陸すしアカデミーへの支援といたしましては、施設の改修費への補助ですとか無利子融資、受講生募集のウェブの広告に加えまして、県として重ねて広告もしておりますし、県外からの受講生に対する交通費助成を行っております。

また、安心して受講いただくためには、今ほども御指摘ありましたが、滞在環境も重要であると考えております。アカデミーから程近いところにある創業・移住促進住宅のSCOPTOYAMAを紹介することも可能でありますし、今後も県外からの受講生が快適に暮らしながら学んでいただけるように、さらに工夫していきたいと考えております。

そして、北陸すしアカデミーと連携して、こうした滞在環境や交通費の支援などの内容を県のウェブサイトやSNSに分かりやすく紹介してまいりたいと考えております。

自然環境に恵まれ、すしネタの宝庫である富山で学ぶ魅力を積極的に発信することで、多くの方に富山ですし職人を目指そうと思っていただけるようしっかり取り組んでまいりたいと考えております。

大井委員 SCOPTOYAMAへの宿泊など、生活の不安なく技術習得に打ち込めるような環境整備をよろしく願いいたします。

そこで、こちらの写真のとおり、北陸すしアカデミーの開校式では知事と武田議長とのすし握り体験がございました。

この白衣姿、知事、そして議長も非常に似合っていると思っています。まさしくこのにこにこした姿が、ウェルビーイングが最高潮にあったのではないかと思われれます。

そこで、知事が握られているすしがこちらの写真です。皆さん、食べる事ができまして、皆さん好きに食べていましたが、1つだけ残っているすしがございまして、知事が握ったすしですが、私は、この最後の1つを食べようと思ったのですけれども、よく見ると非常に黄色っぽいものが大量にあり、食べるには勇気が必要でしたけれども、思い切って食べました。そうしたら、もう鼻から抜けるわさびの味で、5分間ほど悶絶してしまいました。知事には、お忙しいと思いますが、2か月とは言いませんけれども、ぜひとも北陸すしアカデミーに少し通って練習されたらいかがかと思った次第でございまして、でも非常においしかったです。

それでは、質問に戻りたいと思います。

そこで、さらに三大都市圏における認知度向上が、今回「寿司といえば、富山」の喫緊の課題と考えますが、新年度から始まる発展フェーズにおいて、戦略的なPRをどのように行っていくのかお伺いいたします。

今回活躍されたスキー選手も同様ですが、プロスポーツ選手の活用など、その時々話題やトレンドを逃がさずに、タイムリーなPRを展開することが極めて効果的だと考えます。

例えば、本年4月からTBS系で、全10回でございまして、永作博美や松山ケンイチなどが出演する「時すでにおスシ!？」というドラマがスタートいたします。このタイミングで絶妙だと思っています。全国的な注目を集める絶好の好機と考えます。実際に富山のすしアカデミーに来てもらうなど、こうした

メディアと積極的にタイアップした広告等に県を取り上げて取り組んでみてはいかがでしょうか。

首都圏の主要県等でドラマと連動した大規模なプロモーションを展開することで、絶大な認知度向上が見込めるかと思いません。新田知事のすし体験の感想と併せて、御所見をお伺いいたします。

新田知事 「寿司といえば、富山」ブランディングですが、県政世論調査では、政策満足度が26位から4位に大きく上昇しました。また、そのほか民間の調査で、県民認知度が9割を超えるという成果も現れています。

一方、三大都市圏などでの認知度の向上がこれからの課題でありますから、新年度からの発展フェーズでは、官民連携によるPRを強化するとともに、新たに国際学会への出展を通じた客観的評価を踏まえた情報発信を行いながら、首都圏メディアなどを活用し、本県の強みをさらに訴求してまいります。

また、御指摘のように、認知度向上に向けてはタイミングを捉えた情報発信が重要です。スポーツ選手については、ミラノ五輪銀メダルの御褒美におすしを食べたという鍵山優真選手、また、南砺市で開かれたワールドカップモーグルのレセプションでは、ますずしを絶賛された堀島行真選手の話題をXで発信しました。合わせて6万回以上の再生があったところであり、SNSによる発信も強化してまいります。

さらに、委員から御紹介いただきましたすし職人養成校を舞台にしたドラマ「時すでにおスシ!？」が4月から始まることは、北陸すしアカデミーが開校したばかりの本県の魅力を発信するチャンスと捉えております。

開校記念式典の際、私からもドラマへの期待を申し上げましたが、連携した情報発信などに向けて、今、関係者への働きかけを行っているところです。どのようなことができるか検討し

ていきたいと思えます。

すし握りの実演ですけれどもも、あれは1個だけ多めにわさびを入れたもので、あえて。誰が食べるか分かりませんでした。が、当たりということ御理解いただきたいと思えます。

それで、こういったタイミングを捉えた話題性のあるPRを強化して、戦略的な情報発信に取り組むことで、三大都市圏などにおける「寿司といえば、富山」の認知度向上につなげていければと思えます。

大井委員 力強いトップセールス、時代を捉えた戦略的なPRを大いに期待しております。

次に、水産業の振興について質問いたします。

せっかく「寿司といえば、富山」のブランディング戦略を打ち立てているにもかかわらず、漁業現場からは、海に魚がいないと聞いております。県内の米の上に県外の魚が乗っているのでは、ブランディングも意味がないわけであります。

そこで、網にかかっても逃がしている、実際は捨てているメジマグロについてお伺いします。

マグロの漁獲枠の拡大に向けて、国に対して働きかけを持続すべきだと思えます。

漁業の現場からは、大型魚であるマグロによるホタルイカや小魚の捕食など、富山湾の生態系の深刻な影響が強く指摘されております。

また、「寿司といえば、富山」ブランディングの観点からも、県外産に頼るのではなく、真に富山湾で獲れた地魚で極上のすしを提供できる持続可能な体制を構築すべきと思えますが、津田農林水産部長に御所見をお伺いいたします。

津田農林水産部長 メジマグロを含めた太平洋クロマグロにつきましては、国際的な合意に基づいて、我が国でも平成30年からTACによる厳格な管理が行われております。この間、漁業者

による漁獲抑制の努力もあり、資源は回復基調となったことから、今年度から日本の漁獲枠は大きく増枠されております。

これに伴いまして、本県の漁獲枠につきましても、今年度は、30キログラム未満の小型魚の枠がこれまでの10%増となる110.8トン、30キロ以上の大型魚ではこれまでの約2倍となる30.5トンが配分されております。

本県の漁獲状況としましては、小型魚では、TAC管理の対象になって以来、これまでも多くの来遊があり、漁獲枠を遵守するために、漁業者は度々放流を余儀なくされてきました。

一方、大型魚につきましては、これまで漁獲枠まで漁獲が積み上がることはほとんどなかったのですが、近年、漁獲が増えており、今年度は漁獲枠が倍増したにもかかわらず、2月初旬には漁獲枠の上限近くに達し、水揚げを県下全域で停止している状況です。

国際的な資源評価では、親魚である大型魚の回復が進んでいることから、それを受けて湾内への来遊も増えているのではないかと考えております。

県では、国に対しても、これまでも増枠に向けた国際交渉の加速化を要望してきたところでございますが、漁業者からは、御紹介も頂きましたように、クロマグロがイカやほかの魚を捕食し、それらが獲れなくなっているのではないかとといった生態系への影響を懸念する声が上がっております。

また、委員御指摘のとおり、富山湾で獲れた魚を県内で提供できることは、県が推進しております「寿司といえば、富山」のブランディングの観点からも大変重要と考えておりますので、引き続き国に対して、さらなる増枠に向けた交渉の継続について要望してまいります。

大井委員 現場の切実な声でございますので、粘り強い国への交渉をよろしく申し上げます。

次に、豊かな富山湾を育む藻場回復技術開発研究により得られる成果について、今後どのように県内の藻場回復につなげていくかお伺いいたします。

近年深刻化する磯焼けによる水産資源の減少を食い止め、豊かな生態系を回復させる「ネイチャーポジティブ」という言葉がございませう。この取組に大いに期待しております。

その上で、磯焼けの原因として除去されたウニを単に廃棄処分するのではなく、畜養して付加価値を高め販売するなどの取組がございませうが、県内の磯焼けの状況や藻場回復の取組について、津田農林水産部長に御所見をお伺いいたします。

津田農林水産部長 藻場は魚介類の産卵や生育の場となり、また、ブルーカーボンとしても機能する重要な基盤ですが、ウニの増殖等に起因する磯焼けの拡大により、全国的にはその面積が減少しております。

本県の藻場面積につきましては、全体的にはおおむね安定しておりますが、テングサなど一部の海藻について局所的な衰退が見られ、その代わり、ホンダワラなど、ほかの海藻がそれに取って代わっているという状況にございませう。

水産研究所では、海藻種苗を付着させたロープを海底に設置する藻場造成技術を開発し、これまでに魚津沖や滑川沖の水深約8メートルの深いところで、合計5ヘクタールの藻場造成に成功しております。委員御質問の豊かな富山湾を育む藻場回復技術開発研究では、ウニが多く分布する水深3メートルの浅い場所において、商品価値の高いテングサの移植とウニの除去を組み合わせて藻場造成技術の確立を目的としております。

これまで研究所で蓄積してきまして深い水域での技術と合わせることで、幅広い水深帯において藻場を拡大させることができるものと期待しております。

県内各地では、漁業者や地域の関係者による藻場の保全活動

が継続的に実施されております。

県としましては、ウニの除去効果を検証した上で、より効果的な海藻のロープ移植による藻場造成技術を確立し、漁業者等への普及を図りながら、ネイチャーポジティブにもつなげてまいりたいと考えております。

また、除去したウニの活用につきましては、水産研究所で身入りの季節的な変化や品質向上のための飼育条件——餌ですが、その確認等の調査を行っております。蓄養等の取組が可能となれば、漁業者の所得向上にもつながることも期待できますので、引き続き調査研究に努めてまいります。

大井委員 5ヘクタールの藻場造成やテングサに非常に期待しております。実効性のある政策展開をよろしくお願いいたします。

次に、地域経済の活性化について、特に伏木富山港についてお伺いします。

現在、伏木富山港の取引先は、ロシア向けが1位、2番目は中国です。国際情勢が目まぐるしく変化する中、ロシアへの依存から脱却して、伏木富山港における航路の多角化に向けた新たな輸出先の開拓が急務と考えます。県内企業の海外販路開拓に向けた取組に対し、どのように支援しているか伺うものでございます。

例えば、世界的に成長が著しい台湾の半導体サプライチェーンの県内企業の参入支援やインフラ需要が旺盛なASEAN向けの中古重機等の輸出促進など、将来性の高い有望な市場の開拓に戦略的に取り組むことが不可欠と考えますが、山室商工労働部長に御所見をお伺いいたします。

山室商工労働部長 伏木富山港の利用促進はもとより、富山県経済のさらなる振興という観点からも、県内企業の新たな海外販路開拓を支援することは極めて重要な課題と認識しております。

委員の御指摘のとおり、令和7年1月から12月までの貿易統

計の速報値によりますと、主に伏木富山港を利用した輸出先は1位がロシアで37%、2位が中国で18.3%、3位が韓国で9.1%となっております。特定地域への依存から脱却し、航路の多角化を図ることは急務であると認識しております。

県では、現在、委員から御指摘いただきました台湾やASEANといった有望市場を見据え、きめ細やかな支援を展開しているところでございます。

具体的にはタイ、台湾、ベトナムにビジネスサポートデスクを設置しまして、相談対応を行うとともに、県内企業と国内外のバイヤーとの商談会や、海外展示会への出展に対する助成を行っております。

また、昨年「T-Messe 富山県ものづくり総合見本市」では、インドネシアなどから7社の海外バイヤーを招聘いたしまして、商談機会を創出いたしました。

さらに台湾の半導体関連企業などが加盟する団体を招聘し、県内企業との経済交流やサプライチェーン参入の橋渡しを行ったところでございます。

こうした取組を着実に積み上げることが、委員から御提示ありました中古重機の輸出促進など県内企業の力強いビジネス展開、ひいては伏木富山港における航路の多角化へとつながっていくものと認識しております。今後とも県内企業や関係団体と緊密に連携し、新たな市場開拓の支援に取り組んでまいりたいと考えております。

大井委員 先ほど藤井委員からブルーカラービリオネアの話がございました。富山県はものづくりが強いものですから、これをしっかりと支援していくことで、今後、県内の民間の活力が活性化されると思いますので、よろしくお願いします。

続いて、伏木富山港の将来像についてお伺いします。

昨今、アメリカ、イスラエルのイラン攻撃によるガソリン代

の高騰が県民の暮らしを圧迫しております。

また、エネルギーについての関心が非常に高いわけでございます。

伏木富山港長期構想案では、将来的な火力発電所廃止の方向性も踏まえ議論が行われるものと認識しておりますが、次世代エネルギーの受入れ拠点の形成に向けた新湊地区と富山地区におけるすみ分けをどう整理しているのか伺いたいものでございます。

こちらの資料が長期構想案でございます。ここに、従来のこちら、富山港からロシア向け、韓国向け、そして中国向けが航路としてございます。また、富山港の特徴としましては、名古屋、大阪、そして、東京の大都市に向けて距離が非常に近いという特徴を優位性として持って活動しておりましたが、新たに昨今、荷物の変化や脱炭素や観光、災害といった新たな機能が求められております。

次の資料には、次世代エネルギーに関する記載があります。こちらは富山新港で、次世代エネルギーを受け入れて、火力発電所に持っていき活用するといった構想が書いてございます。

そこで、私は、富山新港と富山港、両地区において、どのようなすみ分けが必要なのかを改めて伺いたいと思います。

例えば次世代エネルギー社会を実現するために、廃止されている発電施設を広大かつ有用な跡地として利用し、水素、アンモニアの混焼・専焼技術の量産化に向けた研究開発用施設として使うなど、廃止された施設を最先端の実証実験フィールドとしてダイナミックに再生させるよう、先を見て展開していく必要があると思っております。新田知事に御所見をお伺いいたします。

新田知事 伏木富山港の港湾計画改訂に先立ちまして、おおむね20年から30年先を見据えた長期構想の策定を今進めています。

これまで長期構想検討委員会を2回開催し、委員会の意見を踏まえた長期構想案について、現在パブリックコメントを実施しております。

御指摘の水素などの次世代エネルギーは、県内産業の振興と脱炭素化を同時推進するために重要な役割を果たすと考えております。

長期構想案では、令和6年度に策定した伏木富山港港湾脱炭素化推進計画をもとに、発電所など港湾周辺企業の水素への転換などを見据えて、次世代エネルギーの受入れ拠点形成を図ることとしています。

中期的には、新湊地区の国際物流ターミナルにおいて、他の拠点港からコンテナ貨物として受け入れる二次受入れを目指します。

新年度には、水素コンテナを国際物流ターミナルに受け入れる実証事業を予定しております。

令和8年度末の改定を目指している港湾計画において、まずは次世代エネルギーの二次受入れ拠点の規模や配置などの具体化を検討してまいります。

さらに長期的には、一次受入れとして直接、富山地区あるいは新港地区のほか、伏木地区でも受け入れる構想であり、委員が御質問の各地区のすみ分けについては、民間事業者の需要など将来的なサプライチェーンの動向も踏まえて、今後、検討していくことだと思っています。

大井委員 ガソリン代の高騰により、エネルギーに関して非常に関心が高くなっております。このピンチをチャンスに変え、この3つの港において次世代エネルギーを受け入れる等々を推し進めていただきたいと思います。

次に進みたいと思います。

本県の基幹産業でありますアルミ産業についてお伺いします。

サーキュラーエコノミーの構築に向けた取組が進められていることと連動し、伏木富山港のサーキュラーエコノミーポート選定に向けて、国へ強く働きかけ、取り組むべきと考えます。

本県が既に港湾脱炭素化推進計画を作成しているという優位性も最大限に生かし、太陽光パネルや建材用アルミ廃材の回収・再資源化など、世界的な脱炭素サプライチェーンに本県企業が確固たる地位を築き、参入するための不可欠な取組と考えますが、金谷土木部長に御所見をお伺いいたします。

金谷土木部長 国では、従来のリサイクルポート政策、これの充実を図る形で、サーキュラーエコノミーポートの在り方を令和6年度末に取りまとめております。

今後、港の選定が見込まれておりまして、まだ選定要件は明らかにされておりませんが、公表された在り方を見てみますと、そのポイントは、例えばリサイクル関連の取扱貨物量が一定程度見込まれること、また、高度な分別収集・再資源化施設が立地していることなどが示されておりまして。

御紹介のとおり、県では、基幹産業であるアルミをはじめとする各産業分野におきまして、産学官や異業種が連携し、サーキュラーエコノミーの推進に取り組んでおります。

伏木富山港では、令和6年のデータですが、金属くず約17万トン輸出するなど、一定程度の取扱貨物量がございまして。また、その周辺では、富山市エコタウンなど高度なリサイクル技術を有する企業が立地しているなど、幾つかの選定のポイントには合致しているものと考えております。

一方で、日本海側では、既に姫川港や舞鶴港、境港などがリサイクルポートとして、サーキュラーの前段でありますけれども、リサイクルポートとして指定を受けている状況にございます。

近年、富山地区をはじめ、リサイクルに取り組む企業が増え

てきておりまして、検討中の伏木富山港長期構想案には、サーキュラーエコノミーに資する港湾の形成を目指すとしております。伏木富山港が循環経済に貢献することは大切な観点だと考えておりまして、国の動きを注視しつつ、県内企業や地元市などとも連携しながら、その実現に向け取り組んでまいります。

大井委員 本県の産業競争力を高めるためにも、ぜひともサーキュラーエコノミーポートの指定取得に取り組んでいただきたいと思っています。

また、高度な富山市エコタウンもございまして、併せて検討していただきたいと思います。

そして、本県の基幹産業でありますアルミ産業を、単なる素材産業から新たな付加価値を次々と生み出す、稼げるグリーン産業へと昇華させていくために、県としてどのように取り組むのかお伺いしたいと思います。

本県のアルミ関連企業がますます厳しくなる世界の環境基準をクリアし、さらに世界市場で発展していくためには、県の強力かつきめ細やかな伴走支援が求められます。

特にアルミ産業成長力強化戦略推進事業で配置する専任コーディネーターには、最先端の研究開発と現場の人材育成をシームレスにリンクさせるなど、プロジェクト全体を強力で牽引する役割を強く期待しております。新田知事の御所見をお伺いいたします。

新田知事 御指摘のとおり、本県の基幹産業でありますアルミ産業を、稼げるグリーン産業へと転換していくことは極めて大切だと捉えております。

アルミのグリーン化には国の17の成長分野の1つであるマテリアル分野に位置づけられておりまして、アルミのサーキュラーエコノミーの推進は新たな付加価値創出の鍵となります。

富山県では、これまで産学官による、とやまアルミコンソー

シウムにアルミ企業出身の専任コーディネーターを配置してまいりました。循環配慮設計や選別、リサイクル技術の高度化、ライフサイクル全体でのCO₂排出削減など、企業の研究開発や工程の改善を伴走支援するとともに、コンソーシアム会員企業の協力の下、県内外の大学、高等専門学校生を対象としたインターンシップや技術セミナーも実施してまいりました。

新年度では、コーディネーターを中心に事業をさらに発展させることにしております。DXあるいはAI技術を活用した企業間連携の強化、リサイクル技術のさらなる高度化支援を進めます。

加えて、御指摘のように研究開発と人材育成のリンクについても、企業の研究開発の成果を人材育成の教材として生かすということをやりにして、相互に補完し合う仕組みを新たに検討してまいります。

本県のアルミ産業が世界の環境基準をクリアし、持続的な発展を遂げられるよう、サーキュラーエコノミーの推進を一層加速させて、稼げるグリーン産業の確立に向けて、今後も力強く支援してまいります。

大井委員 本県のアルミ産業は、ものづくりの根幹だと思っております。コーディネーターの腕前と県の全庁的なバックアップを大いに期待しております。

次に、資源循環についてお伺いします。

今回のイランの攻撃により、石油製品の懸念が県内に広がっております。

そこで、県内への再生プラスチック集約拠点施設の誘致に向けて、県内企業における再生プラスチックの品質向上に向けた新技術導入や、事業者間連携を後押しする必要があると考えております。新年度の具体的な取組についてお伺いしたいと思います。

県内の製造業全体が、部品調達網において再生素材の使用割合を急激に高めているという市場の動向を踏まえ、高品質な再生プラスチックを安定的かつ大量に提供できる強靱な体制の構築が本県に求められています。山室商工労働部長に御所見をお伺いいたします。

山室商工労働部長 委員から御指摘いただきましたとおり、国内製造業におきまして、再生素材の活用が急務となっております中、高品質な再生プラスチックの安定供給体制の構築は極めて重要な課題でございます。その実現には、新技術の導入などを通じた品質向上と動脈産業や静脈産業など事業者間の強固な連携が不可欠であると認識しております。

本県におきましては、プラスチック製品メーカーの集積に加えまして、廃プラスチックを高度に選別、リサイクルできる先進的な事業者が立地しておりまして、資源の循環利用を支える優れた産業基盤が整っております。

今年度、県では、富山県新世紀産業機構にワンストップ窓口となる富山県サーキュラーエコノミー推進プラットフォームを設置するとともに、技術開発補助金にサーキュラーエコノミー推進枠を新設し、県内企業の取組を後押ししてまいりました。

新年度には、支援を一層強化するため、同プラットフォームに技術コーディネーターを新たに配置し、専門的な技術相談体制を拡充いたします。

さらに最新の技術動向を紹介するセミナーの開催、また、動脈、静脈企業間のマッチング、共同研究を促進し、企業間の連携構築を力強く後押ししてまいります。

国、環境省におきまして再生プラスチック集約拠点の検討が進む中、県といたしましてもその動向を注視しつつ、県内企業への技術支援と連携促進を通じた関連産業の高度化を図りまして、本県のサーキュラーエコノミーを一層推進してまいりたい

と考えております。

大井委員 さきの衆議院議員選挙で1区から当選されました中田宏さんは、環境イコール経済だとおっしゃるなどその分野においてはプロとして精通しておられます。

自動車部品は、プラスチックにおいては、ヨーロッパの規制は非常に厳しくなっていて、プラスチック製品はプラスチック製品に置き換えなくてはいけないという動きもあるという話をされておりますので、しっかりと連携、国とも連携していただきまして、本県が環境配慮型のビジネスのトップランナーとなりますよう支援していただきたいと思います。

次に、物流の課題についてです。

いわゆる物流の2024問題により、長距離トラックの輸送力低下が深刻に懸念されている中、伏木富山港を最大限に利用した食料品の海上輸送のルートの構築が急務と考えております。

海上輸送は、これまで中心であった工業製品や原材料にとどまらず、本県の豊かで魅力的な食の県外あるいは国外展開にも大いに活用すべきだと考えます。

大量かつ安定的な輸送が可能な海上輸送の利点を生かすことができれば、本県が現在取り組んでいるとやま輸出ジャンプアップ計画の目標達成にも大きく寄与するのではないかと考えます。山室商工労働部長に御所見をお伺いいたします。

山室商工労働部長 委員から御指摘いただきましたとおり、物流の2024年問題によるドライバー不足は、工業製品のみならず、本県の豊かな農林水産物や食品においても、サプライチェーンの分断を招きかねず、産業の根幹に関わる極めて重要な課題でございます。

大量かつ安定的な輸送が可能な海上輸送は、トラック輸送の有力な代替手段の1つになり得ると認識しております。

現在、本県からの農林水産物などの輸出額は、令和6年度調

査で59億円と順調に伸長しております。

一方で、令和6年度の貿易統計によりますと、伏木富山港からの農林水産物などの輸出額は約5億円にとどまっております。多くは他県の港湾を経由しているというのが実情でございます。これには、利用港湾を輸出事業者が決定するため、生産者などによる指定は難しいという背景があると承知しております。

こうした現状を踏まえ、農林水産物などの海上輸送ルートの構築に向け、輸出に関わる事業者に対し、伏木富山港の優位性を丁寧に周知していく必要があると考えております。

当港には内部温度を一定に保つコンテナ用電源設備がありまして、最適な低温輸送が提供できること、また、外航海運のみならず、内航海運も利用できること、そして、各種補助制度が充実していることなどの強みがございます。今後、農林水産物などの輸出関係者向けセミナーなどを通じて、これらを積極的にPRしてまいりたいと考えております。

伏木富山港の利点を最大限生かすことで、県産農林水産物、食品の国内外への展開を力強く後押しして、とやま輸出ジャンプアップ計画の目標達成に資するよう取り組んでまいりたいと考えております。

大井委員 伏木富山港からの農林水産物などの輸出額は現在5億円ということですね。

物流の危機を本県の飛躍のチャンスに変える政策の実行をお願いしたいと思います。

次に、観光振興についてお伺いたします。

新年度に策定する第4次富山県観光振興戦略プランにおいて、海から3,000メートル級の立山連峰の山々を雄大に見上げることができる、世界に類を見ない本県ならではのキラークンテンツを生かした、海上観光ルートの構築をしっかりと位置づける

べきだと考えております。

例えば大型クルーズ船で来航した外国人観光客らがスムーズに乗り換えるための小型観光船舶を伏木富山港を構成する富山港、富山新港、伏木港の各エリアに適切に配置し、下船後、そのまま海上観光に向かうことができるシームレスなルートの構築が可能でございます。

こちらの資料のとおり、伏木港、富山新港、富山港、それぞれ、クルーズ船のサイズが違ってまいります。伏木港は22万トン、新港は7万トン、そして、富山港は2万トンということですので。

そこで、大形船の泊まる伏木港、22万トンから小型に乗り換えることによって県内各地、そして、伏木から富山港に来ることによって、富岩運河の歴史ある運河を活用して、そのまま内陸の魅力的な観光地にも接続することができます。

海を入り口とした富山の玄関口ということで、人のほうもそのように運べれば、本県観光の極めて大きな目玉になると確信しておりますが、宮崎観光推進局長に御所見をお伺いいたします。

宮崎観光推進局長 富山湾は、海越しに3,000メートル級の立山連峰を臨む、世界に類を見ない景観や県民総ぐるみでの富山湾周辺のにぎわい創出、環境保全の取組が評価され、世界で最も美しい湾クラブに加盟するなど、本県観光の大きな魅力であると認識しております。

現行の第3次富山県観光振興戦略プランにおきましても、「富山湾の潜在的・神秘的な魅力や美しい景観を観光資源として発掘、磨き上げ、本県の新たな魅力を創出する」こととされておりまして、これまでも観光振興、地域活性化と自然環境、海洋資源保全の両立を目指した持続可能な観光振興に取り組んできたところです。

現在、富山湾や富岩運河を活用した観光ルートとして、富山港に程近い、委員の地元の岩瀬から富岩運河、環水公園までの間を運行する富岩水上ラインをはじめ、民間事業者が主体となった新湊内川から富山新港を巡るナイトクルーズや漁船でのプライベートクルーズなどの旅行商品も造成されております。

また、現在運休中ではあるものの、氷見沖クルージングや滑川の富山湾クルージングのいち早い運行再開も待たれるところでもあります。

これらの充実したルートは本県ならではの魅力の1つであります。委員御提案の海上観光ルートの構築につきましては、新年度の第4次富山県観光振興戦略プランを策定する中で、その安全性と安定的な需要確保などの課題について整理しつつ、有識者の御意見も伺いながら検討してまいります。

大井委員 1点、お伺いしたいのですが、海のほうから富山のほうに入る。そして、運河を使って入る。非常に素晴らしいコンテンツだと思いますが、冬に観光船が運航していないので、冬のサービスとして、ドローンを使って運河を疑似体験できるような形で何かサービスをつくってみてはどうかと1つ提案したいと思いますが、局長の御意見をお聞かせいただきたいと思っております。

宮崎観光推進局長 VRということかと思っております。確かにVRは、雨天時、荒天時の観光コンテンツの1つとして非常に大事だと思いますので、そういうコンテンツについて、また検討してまいります。

大井委員 冬に観光客がぴたっと止まってしまっていて、町並みもがらんとなります。冬の観光も合わせて今後考えていかななくてはいけないと思っております。

それでは、次に、本県を支える成長産業でありますバイオ医薬分野についてお伺いたします。

私からは、バイオ医薬品のサプライチェーン、港を使った物流についてお伺いしたいと思います。

バイオ医薬分野における部素材のサプライチェーン構築に向け、県内の優れたものづくり企業とバイオ医薬品企業の連携、さらには材料の輸入に係る物流ネットワークの構築に総合的に取り組む必要があると考えます。

バイオ医薬品は、本県経済を力強く成長させる新たなエンジンであり、くすりの富山の歴史ある伝統と本県に脈々と蓄積された高度なものづくり技術が融合されております。これまで輸入に頼っていた製造部材の県内における内製化につながります。

さらに、原材料の輸入に係る効率的な物流ネットワークの構築等にも同時に取り組むことで、国が求める強靱なサプライチェーンの構築が富山県で実現できると期待されます。山室商工労働部長に御所見をお伺いしたいと思います。

山室商工労働部長 委員から御指摘いただきましたとおり、本県は全国トップクラスの医薬品製造の集積に加えまして、富士フイルム富山化学のバイオ医薬品製造拠点など強力な基盤を有しております。

一方で、高機能樹脂容器やシングルユース部材など主要部素材の多くを海外に依存しているというのが実情でございます。

これらを物流も含めまして県内企業が供給できる体制を整えることは、サプライチェーンの強靱化のみならず、付加価値の高い産業集積の形成につながるものと認識しております。

既に県内では、高度なものづくり技術を生かしまして、高付加価値分野へと参入する動きが進みつつございます。

自動車用コネクタ製造企業の三晶MECでは医療用保存容器の開発をされ、富士フイルム富山化学に納められることになっております。産業用ホースメーカーのトヨックスにおいても、人工透析用医療ホースの商品化など、新分野、新市場開拓の動

きが具体化しているところでございます。

こうした動きを一層後押しするため、新年度、ものづくり企業とバイオ・医薬分野参入推進事業を展開いたします。ものづくり企業とバイオ・医薬品企業とのマッチングや共同研究、部素材などの製品開発を支援いたします。

併せて、県内企業などへ伏木富山港の利便性、支援制度を周知いたしまして、材料などの輸入に係る物流ネットワーク構築についても支援してまいります。

これらの取組を通じまして、くすりの富山ブランドを一層高めるとともに、県内企業の成長と雇用創出を促進しまして、本県経済の持続的かつ力強い発展につなげてまいりたいと考えております。

大井委員 薬都とやまの新たな時代を切り開く戦略的な産業育成をお願いします。

1点お伺いしたいと思います。

今、バイオ医薬品の材料の輸入、インスリンやコロナ関係のバイオ薬品のワクチンの材料の輸入は、どれぐらいの割合があるのかわかりますか。また、物流等についても分かれば教えてほしいのですが。

山室商工労働部長 正確な数値は持ち合わせておりませんが、海外の医薬品の原料については、中国、インドから、その多くを輸入しているというのが現状だと医薬品メーカーの方々からは伺っております。

大井委員 そのうち、伏木富山港を利用している割合というのは分かりますか。

山室商工労働部長 すみません。その数値は、今持ち合わせておりません。

大井委員 分かりました。

サプライチェーンは、工場から近いほうが絶対いいと思いま

すので、その辺のサプライチェーンもしっかりと構築していただきますようによろしくお願いいたします。

それでは、最後に、住環境の整備についてお伺いいたします。

空き家フルリノベーション支援事業により、県内の深刻な空き家問題の解消と同時に、優良な中古住宅市場の形成にどのように取り組んでいくのか、事業の目標と期待される効果についてお伺いします。

売買再販業者の持つ民間のノウハウと活力を最大限に利用し、単に危険な空き家を減らすという消極的な対策から一步踏み出し、これからの時代に不可欠な断熱性や耐震性に優れた優良な住宅ストックへと再生し、若い世代等へ流通させる画期的な取組であると大いに期待しております。金谷土木部長に御所見をお伺いいたします。

金谷土木部長 令和5年の住宅・土地統計調査によりますと、県内の空き家でございますが、6万9,700戸と、5年前の調査と比較しまして9,700戸増加しております。空き家率は14.7%となっております。これも全国の平均を上回っている現状であります。御指摘いただきましたとおり、空き家の利活用が課題だと考えております。

新年度予算案には、国の補助金や企業版のふるさと納税を活用いたしまして、民間業者に対し、空き家を一定以上の断熱性や耐震性を有するものに改修する費用を支援いたします空き家フルリノベーション支援事業を計上しております。

御紹介いただきましたこの事業の狙いでございますけれども、新築以外にも、既存の住宅をリノベーションするという考え方があるということを広く県民や事業者へ周知し、浸透を図ることにあると考えております。

具体的には、中古住宅であっても、改修すれば高断熱化や耐震性を有することで、新築に匹敵する性能を有する住宅にでき

るということをお示しすること、それから、住宅を改修する技術を向上させ、将来の需要に対応できるよう事業者の育成を図ること、こうした事例を蓄積しまして、様々な媒体で発信することです。これらを通じて、新たな住まいの選択肢を目指すものでございます。

また、ニーズに対応できるよう改修後の断熱あるいは耐震の性能は2タイプに制度設計をしております。

もちろん数に限りはございますけれども、この事業を通じまして、優良な中古住宅の民間市場の流通活性化を促しまして、空き家の利活用が定着するよう取り組んでまいりたいというものでございます。

大井委員 空き家の利活用については、私も日頃から問題意識を持って活動させていただいております。

冒頭の北陸すしアカデミーも空き家利用の1つでございまして、間口が広いケースのため、比較的扱いやすかったのですが、私の地元の岩瀬は、隣近所の間隔が非常に狭くて、空き家の利活用をしたいといったときでも、車を止められないという空き家が非常に多くあります。そういった旧の町があったところは、県内でも多いと思います。今回、空き家を壊さずにそのまま利活用するという考え方だと思っておりますが、そうしたら、使えない空き家はそのままずっと残るわけでございまして、何軒かまとめて一度壊して新しく建て直すといったものへの補助はないものかお聞きします。

金谷土木部長 確かに2軒3軒をまとめて改修するというのは、ケースとしてはあり得るだろうと思います。

ただ、今回事業化しているものについては、あくまで既存のものを改修するのが基本になっております。

現場の状況は私も十分承知しております。このほかにも、特に海沿いにはそういう箇所が多いと思っております。ニーズも

踏まえまして、今後、調査、研究していきたいと思えます。

大井委員 空き家が負の資産とならないような、空き家を地域の魅力的な資産へと生まれ変われるような本事業となるように力強い推進を要望しております。

瘡師委員長 大井委員の質疑は以上で終了しました。

暫時休憩いたします。

午後の会議は1時に開会いたします。

午前11時59分休憩